

みんなでつくる園の未来!

保育ナビ

2025
DECEMBER
<9/12>

12

保育実践から読み解く
「安心と挑戦の循環」
旅するように保育する

小学1年生の授業を拝見!
～学びを通してつながりを理解する
生活科 がっこう だいすき

持続可能な未来を切り拓く
変化する時代の経営戦略
園長先生のお困りごと⑦ 合併

特集

多文化社会を生きる子どもたちと共に

イギリスの
保育・幼児教育

2025年度は、保育と子どものおもしろさを伝え、ワクワクを広げる内容を読者にお届けします。

『保育ナビ』の使い方

読む

まずは、自分で読みます。回覧したりして、園内でも各自で読みます。



語り合う

読んだ記事をもとに、園内で「雑談」をしたり「研修」をしたりしてみましょう。



保育の質の向上へ

読み、話すことでの、園内で学び合い・語り合いが生まれ、保育の質が高まります。



【今月のおすすめ】

園長・主任・学年リーダーにおすすめのコーナーを選んでマークを表示しています。



園長



主任



学年リーダー

マークのついているコーナーでは、園内で話し合うためのお題・ワークを用意しています。職員会議や園内研修などでご活用ください。



マークのついているコーナーではワークシート等のダウンロードができます。右の二次元コードからアクセスしてください。



マークのついているコーナーでは、関連動画があります。

『保育ナビ』は、編集委員がサポートしています。

秋田喜代美（学習院大学）
浅井幸子（東京大学）
大方美香（大阪総合保育大学）
大豆生田啓友（玉川大学）
北野幸子（神戸大学大学院）
古賀松香（京都教育大学）
境 愛一郎（共立女子大学）
汐見稔幸（東京大学名誉教授）
砂上史子（千葉大学）
松井剛太（香川大学）
無藤 隆（白梅学園大学名誉教授）
矢藤誠慈郎（和洋女子大学）
敬称略 50音順

編集委員から読者の皆さんへ応援メッセージを
月替わりで配信します。詳しくはP.32へ！

『保育ナビ』が伝えたいこと

外国籍の子どもも 健やかに育つために

外国籍の子どもも、多様な文化的背景をもつ子どもが在籍する園は少なくありません。保育では多様性の尊重が浸透してきていますが、多文化社会ではどんなことが保育で大切になるのでしょうか。今月の特集では、日本よりも多文化社会が進むイギリスにおいて、どのような工夫をしているのかご紹介します。インクルーシブな保育、多文化の共生のために参考になれば幸いです。

——『保育ナビ』編集部

巻頭

- 園 フレーベルのことば 汐見稔幸

特集

主 多文化社会を生きる子どもたちと共に
イギリスの保育・幼児教育 … 4

榎 瑞希子 浅井幸子



実践紹介

- 子育てをより豊かなものにするための園の工夫
～社会福祉法人よしみ会
「ハグハグキャンペーン」から … 22

注目テーマ

- 主 保育実践から読み解く
「安心と挑戦の循環」 … 26
汐見稔幸
- 園 園の未来を握るリスペクト型マネジメント
みんながワクワクする
多機能化と地域共創 … 28
大豆生田啓友
- リ 小学1年生の授業を拝見！
～学びを通してつながりを理解する … 30
無藤 隆 片岡麻梨子
- 聞くと視野が広がる
編集委員からのメッセージ … 32
砂上史子

保育内容

- リ 3・4・5歳児
遊びが育つ保育
保育者の役割 … 34
河邊貴子
- 主 0・1・2歳児
保育者のセンス・オブ・ワンダー
子どもの心を豊かに育むために … 36
井桁容子
- 保育が変わると計画が変わる
やってみよう！
子どもの姿ベースの
指導計画 … 38
大豆生田啓友 佐伯絵美

園 エコロジカルな園庭へ

- 再生のための実践ゼミ … 42
小西貴士 ポール・スマザー

- 保育環境 知らないと損！ 子どもが育つ
自然遊びが楽しい
園庭づくりのススメ … 46
ささき隊長

Information … 49

人材育成

- 若手育成のヒントに！
保育者養成校の今 … 50
三谷大紀

- 職員みんなで考える
保護者支援10のポイント … 54
浅井拓久也

国の動き

- 国の動きを読む！
研究者の目2025 … 56
矢藤誠慈郎

園経営

- 持続可能な未来を切り拓く
変化する時代の経営戦略 … 58
桑戸真二 柳 修二

- 予防のために知っておきたい
事故につながる
12のポイント … 60
脇 貴志

エッセイ

- リ 保育ナビエッセイ
保育とわたし … 62
井辺和杜



多文化社会を生きる子どもたちと共に イギリスの保育・幼児教育

世界でも有数の多文化社会であるイギリス。
幼児教育カリキュラムの基本となるEYFS*には、
子どもの文化的背景や多様性を尊重した
保育が示されていて、
現場では様々な工夫がされています。
イギリスの保育・幼児教育に詳しい
榎 瑞希子先生と共に考えていきます。

* Early years foundation stage statutory framework (乳幼児基礎段階法定枠組み)

監修 榎 瑞希子（聖徳大学名誉教授）

提言／浅井幸子（東京大学）
取材・文／近藤麻美、撮影／滝浦哲

Contents

制度・社会事情を知る
保育・幼児教育を通じて
より良い社会の構築を目指す …P.5
榎 瑞希子

保育・幼児教育の現場は？ LEYFの取り組み
眞のサスティナビリティで
多様な背景をもつ子どもたちを支える …P.7

海外の保育・幼児教育から考える
公正で包摂的な社会に向けて、
保育・幼児教育にできることは何か …P.17
浅井幸子

みんなの声 経験者にアンケートを実施！
海外の保育を見て！ 知って！
こんな気づきがありました …P.18





制度・
社会事情を
知る

保育・幼児教育を通じて より良い社会の構築を目指す

楠 瑞希子

イギリスには、保育・幼児教育を通じてより良い社会を築いていくこうとする長い伝統があります。

19世紀初めにはオーウェンが豊かな環境を備えた遊びと集団生活の場を、20世紀初頭には慈善団体が貧民街に保護施設を設置して、幼い子どもと家族を支えました。先進的な人々は、フレーベルの幼稚園やモンテッソーリ法、フロイトの精神分析といった外国由来の理論や実践もいち早く受け入れて、子ども理解に基づいた家庭外施設の普及

運動を展開しました。第二次大戦後は、「ゆりかごから墓場まで」の福祉国家建設の一環として、教育による「より幸福な子ども時代と人生におけるより良いスタートの保障」^{*1}が目指されました。しかし、就学前教育の優先順位は低く、働く親の保育ニーズは福祉の対象外でした。サッチャヤー首相の時代（1979～1990）には、新自由主義の「小さな政府」のもとで福祉は後退し、子どもの貧困率が高まり、保育・幼児教育の無秩序な市場化が進みました。



*1 Board of Education [1943], Educational Reconstruction, p.1

『保育ナビ』編集部からのお知らせ

公式サイトや SNS で保育最新情報をチェック!

『保育ナビ』は公式サイト や SNS でも様々な情報を配信しています。
より早く、より詳しい情報のためにぜひともチェックしてみてください。

公式サイト



YouTube



Facebook



Instagram



保育ナビ

若手育成のヒントに! 保育者養成校の今

保育者不足が言われるなか、保育現場において、その卵を育てる保育者養成校への関心は高まっています。そこで、学生の声も交えながら、保育者養成校の今どきの様子を紹介します。養成校と園をつなぐ企画です。



執筆 三谷大紀
(関東学院大学)

学校紹介



関東学院大学 教育学部 こども発達学科

キャンパス所在地：神奈川県横浜市金沢区六浦東1丁目50-1

設立：1949年（人間環境学部人間発達学科を改組し、2015年に教育学部を設置）

学生数(定員): 560名

1 学校の様子は？

保育者養成校としての特色、学べる内容等について教えていただきます。

そうしたことから、本学部では、
1年次においては、入学時の取得
希望免許・資格や進路に限定せ
ず学べるように科目を配置し、保
育、小学校、特別支援、児童養護
施設などの福祉現場の現状はもち
ろん、それぞれの魅力や意義につ
いても、幅広く学ぶことができます。

ついてより学びを深めたいかを学生自身が自由の選び、決める機会を保障し、2年次からは、「保育」「ス」と「小学校」コース（通称）に分かれ、自らが決めた分野についてより深く学べるようなカリキュラムを構成しています。

本学部では、「いじもとともに生きる。」をスローガンとして、保育士・幼稚園教諭のほかに、小学校教諭、特別支援学校教諭を養成しています。ほかの保育者・教員養成校がそうであるように、入学していく学生のほとんどは、保育や教育に関心をもち、何かしらの免許・資格の取得を希望して入学してきます。その一方で、大学という場において、より専門的に各分野の内容を学び、保育・教育現場等の今を鑑み、これからを考えていく中で、実際に自分がどの分野の学びを深め、活躍していきたいかが、変化していくことも少なくない。

いてできる限り広く学ぶとともに、どの現場、年代、分野等においても等しく大事にしたいことを考える機会をつくりっています。さらに、1年次後期には、幼稚園教諭1種免許、小学校教諭1種免許の取得を希望する学生には、同法人の2つの認定こども園、2つの小学校等に1週間の実習に出稼場での学びと大学内での学びとが往還するように科目配置を工夫しています。また、1年次に認定こども園と小学校のいずれで実習を行うかは、学生自身が選択できるようになっています。そして、1年

学生たちの声から

アンケート結果からこれからの保育現場を担う保育者たちの素顔を紹介します。

〈対象／2025年度の4年生（5名）。アンケート結果を抜粋して紹介〉

質問
1

どうして保育者になろうと思った？

中学生の頃、自己紹介プリントにあった将来の夢という項目に何を書こうかと考えた時に、幼稚園児だった私が、お泊まり保育の肝試しで、泣かずにつづきできたのに、担任の先生を見たら安心して号泣してしまったことを思い出しました。それがきっかけで、自分も子どもたちにとって安心できる存在になりたいなと思いました。

自分が通っていた保育園の先生が優しくてすてきだった印象が強く残っており、そんな先生に憧れて保育者を目指すようになりました。



自分が小学生の時に小学校の教員になりたいと思ったのがきっかけで、小さい子どもが好きなことに気付き、保育者になりたいと思った。また、自分自身幼稚園が楽しかったから。

自分が通っていた保育園の担任の先生がずっと大好きで、その先生のように明るくて一人ひとりに愛を注ぐことができるようになりたいと、憧れを感じたから。

母が保育者で姉も保育者を目指していたから。

質問
2

保育者に向いていない、志望を変更しようと思った瞬間はあった？

大学で勉強していくうちに、周りの友だちの考え方にはっとさせられたりすごいなと思ったりした時に、自分は向いていないなと感じた。

保育所や幼稚園での実習で、保育者の方々の姿から学ぶことが多く、その姿に憧れる一方で、自分が理想とする保育者になれるのか不安に感じたことがあります。

実習で、保育者の方との振り返りの時に「私にはその視点がない」とネガティブになることが多々あった時。



授業でほかの子が話す事例と考察を聞き、「この考えにつながるのがすごいな」と思ったり、「私には見えないものが見えているな」と自分が何もできていないと感じてしまった時。

質問3 仕事に期待していることは？

人間関係などで悩まずに、楽しく子どもたちの成長を見守っていける職場だといいなと思う。



子ども一人ひとりの個性を尊重できる保育ができるといいなと思います。

園の方針や規模などは園によって違いますが、そこに通う子どもたちが自分らしく過ごせる場所が増えるといいなと思います。

子どもたちの姿から臨機応変かつ柔軟に保育を変化させていきたいので、ある程度これが許される職場だとうれしいです。

質問4 不安に思っていることは？

実習や園見学などで子どもたちとかかわる場を経験させていただいているが、実際に保育者として現場に立った時に目の前の子どもたちに対して適切なかかわりができるか不安に思います。

保育者の先生たちは視野が広くて、すぐに子どもたちの表情や体調の変化に気付くことができるし、危険察知能力も高くて、すごい。自分にはないものばかりで心配です。

自分に子どもを見ることができるのか不安。保護者に何か聞かれた時、相談された時に答えられるのか不安。



自分のメンタルと体力がついていくのかが不安。

保護者とのかかわり。どのように関係性を築いていくか。

3

若手人材、育成のヒント

若手人材を獲得・育成していく際のヒントをお聞かせいただきました。

おもしろそうなことを 共にやってみる

3年次からゼミ活動がスタートします。私のゼミでは、3年次で何をするかは、ほとんど決まっていません。内容はゼミ生と共に一から決めていきます。ゼミに集まつてくる学生は、日頃から一緒にいる友人とは限りません。ですから、まずは同じゼミになったメンバーの考え方や良さを知る機会をつくり、このメンバーでやってみたいことを出し合って、活動内容を決めていきます。

取り組みの一部を簡単に紹介するト、自分たちで作った竿と仕掛けでの魚釣り、ペットボトルと廃材（木材）でいかだを作つて海に出る、廃材によるファッショショーンショー、地域の親子向けの外遊びイベントをYPCプレイヤーダー会と協働開催（「のじロックン」、……等です。）見すると、遊んでいるだけのように思われるかもしませんが、むしろ楽しむことやゆるさを大事に

し、自分とは異質な考え方と共存しつ、自分が参加、貢献できることは多様にあり得ることを実感できる機会をつくりたいと考えています。

地域で学ぶ・現場で学ぶ

前述したような活動を展開していくためには、大学を飛び出し地域に出向く必要が生まれます。結果として、地域資源を活用し、協働するとも学んでほしいと願っています。

また、ゼミでは、どんな現場に行きたいかを出し合い、園見学等を行い、その内容を各自がドキュメントーションにまとめて、共有します。作成したドキュメンテーションは、見学先にも見ていただきます。各現場からは、自分たちが気付いていたかった自園のおもしろさや良さを見る機会になると喜んでいただいています。その過程において学生は、たどえ学生であっても、あるいは、自分の実践でなくても良さを見出せることや、自分なりに表すことの意味を学んでいます。それらが、卒業後

の多様な同僚やその後、自分が受け入れることになる学生等の見方からも学ぶ構えをつくっていく一助になればと願っています。こうした様々な活動をもとに、3年次終わりには、個人の探究テーマを設定し、自分のフィールドを決め、継続的な参与観察等を実施し、ゼミで共有しながら、卒業研究としてまとめていきます。

「共事＝事を共に」するなかで

様々な活動を「共事＝事を共に」する（小松、2021）なかで、保育・教育をめぐる社会課題に向かう自らの「当事者性」に気付き、自らの「ひとりもとともに生きる」構えをつくつていくことにつながるのではないかと考えています。そして、自分が感じたことを、自分なりに表し、自分自身に価値を見出すとともに、他者の声に価値を見出すことも体感していくことが、子どもや同僚、保護者、地域の人々など多様な人々と共に保育を営む上での糸口を掴む機会になればと願っています。

※小松理虔（2021）.『新復興論 増補版』, ゲンロン.

